

公共交通機関の全面運休のため帰宅できなくなり、アリーナで一夜を明かした学生たち



大きな揺れが収まった後、校舎を出てアリーナに避難する学生たち



県内で震度7…帰宅困難学生も

炎天下の避難 家族や知人と安否確認

7月28日（火）午後4時27分ごろ、熊本県内で最大震度7を観測する強い地震がありました。県内で震度7を観測するのは、「平成28年熊本地震」以来10年ぶり。本学が立地する熊本市北区でも震度5強の強い揺れがありました。

縦揺れに続き1分に及ぶ長い横揺れが収まった後、建物内にいた学生たちのほとんどが近くにいた教職員らの誘導で屋外に退避。気温35度を超す炎天下で、スマホを使って家族や知人とお互いの安否を確認し合っていました。

時間がたつにつれ、建物倒壊や死傷者を伴った県内各地の被害状況が明らかになってきました。本学でも天井板の一部が損傷したり、本棚の書籍や備品が床に散乱したりする被害はありましたが、建物の基本構造にかかわる損傷は確

認されませんでした。また、学生・教職員に大きな人的被害の報告も7月29日現在、ありません。

地震当日は公共交通機関が全面ストップしたため、大学では帰宅困難となった学生21人に対してアリーナを開放し、寝具や食料、水を提供しました。中には、実家が倒壊したという連絡を受けた学生もいて、「家族は無事でした」と言いながらも不安な表情を見せていました。

地震の影響で、7月31日（金）まで臨時休講として学生の構内立ち入りを禁止し、一部の定期試験の日程も変更。8月8日（土）に予定していた「からだのふしぎ探検in熊本保健科学大学」も中止が決められました。（NL編集部）

実演交え中学生に 薬物乱用防止教室

公衆衛生看護学専攻科



飲酒の誘いを断るロールプレイングに挑む生徒（左）

公衆衛生看護学専攻科の学生19人が7月14日（火）、熊本市北区の北部中学校で薬物乱用防止教室を実施しました。専攻科の学外実習の一環。

学年ごとに「飲酒」「喫煙」「薬物」の3つのテーマに分かれ、これらの物質が身体にどのような影響を及ぼすのか、また、誘われた際にどのように断ればよいのかについて、実演を交えながら分かりやすく伝えました。

専攻科生たちは、中学校からの要望や事前に実施した生徒アンケートの結果を踏まえ、発表内容を検討してきました。当日は、違法薬物や20歳未満の飲酒・喫煙の危険性を訴えるだけでなく、生徒自身に誘われた場面を想定したロールプレイングを体験してもらうなど、興味を持って参加できるような工夫が随所に見られました。

それぞれの発表後には質問時間を設け、生徒からの問いかけに対して専攻科生が真剣に答える姿が印象的でした。（NL編集部）

看護学科生（左）の指導を受けながら
新生児のモデルを抱っこする高校生



医学検査学科のブースでは、簡易白衣に身を包んだ高校生が顕微鏡で細胞の形を観察



工夫凝らし 高校生に魅力PR

猛暑に負けず オープンキャンパス盛況

本年度第1回のオープンキャンパスが7月19日（日）開催され、猛暑の中962人の高校生や保護者がキャンパスを訪れました。

学科ごとに開かれた全体説明に続き、来学者たちは各学科・専攻が工夫を凝らした模擬実習を体験。実習器具を使った検査・測定のほか、ゲームやクイズ形式の実習など多彩な内容で高校生を惹きつけていました。また、進学や奨学金・アパートなどの相談コーナーでは、生徒、保護者共に真剣な表情で担当職員らの説明に聞き入っていました。

ピア・サポーターによる恒例の「先輩と話してみよう」コーナーでは、高校生がお目当ての学科・専攻で学ぶピア・サポ学生たちに、学修内容やキャンパスライフ、アルバイトなど、さまざまな質問を投げかけていました。

高校1年の時から毎年訪れているという熊本市内の高校3年生は「プロスポーツのトレーナーを目指しています。そのためにも、この大学を目指します」と、力強く宣言。初めてのオープンキャンパスという水俣市の高校1年生は言語聴覚士を目指しているそうで「（言語聴覚士の仕事は）思ったより多いですね」と感心した様子。本学の印象を聞かれ「大学って怖いところというイメージだったけど、明るい雰囲気先輩方も優しくて気さくでした」と、笑顔で答えてくれました。

本年度第2回のオープンキャンパスは、8月23日（日）に開催されます。（NL編集部）



凸凹ニヨロニヨロの先は？ 作業療法学専攻ブースでバランス遊びに興じる高校生

アリーナでは理学療法学専攻の学生たちが、備え付けの最新機器を使って、訪れた生徒たちの筋力を測定



言語聴覚学専攻の学生たちは、さまざまなゲームやクイズを駆使して、言語聴覚士の仕事や訓練内容を紹介

学長賞

幼い日 父の煙草の吸殻を 食べかけ それ見て禁煙した父

学生委員長賞

灯を消して未来を灯し 花薫る

事務局長賞

吸わぬだけ 旅の予算が また増える

禁煙川柳三賞決まる

世界禁煙デー（5月31日）と禁煙週間（5月31日～6月6日）にちなみ学生委員会と学友会が学内募集した禁煙川柳で、学長賞、学生委員長賞、事務局長賞の三賞が決められました。学長賞には、りんごさん（ペンネーム）の「幼い日 父の煙草の吸殻を 食べかけ それ見て禁煙した父」が選ばれました。

本学の学生・教職員、関係者から40作品が寄せられました。学長賞に輝いた作品は、子どもの時の記憶がよみがえってくる心温まる川柳との評価を得ました。このほか、学生委員長賞には体操小僧さんの「灯を消して未来を灯し 花薫る」、事務局長賞に

はうれシーサーさんの「吸わぬだけ 旅の予算が また増える」が選ばれました。

このほか、学生ノミネート作品10句を対象にした学生投票の結果、1位にはびかびかの看護学生さんの「愛煙家 命を削る納税者」、2位にミーナさんの「廃になった high (な) 心で 肺は哭く」、3位にはそらさんの「吸うたびに 隣の笑顔も 曇らせる」が選ばれました。

表彰式は7月15日（水）、応接室で行われ、竹屋元裕理事長・学長、申敏哲学生委員長、河瀬晴夫事務局長が三賞受賞者を表彰しました。（NL編集部）

クマホで学び クマモト満喫

タイ・コンケン大の6人（6月9～20日）

韓国・大邱保健大の7人（6月29日～7月11日）

6月から7月にかけて、コンケン大学（タイ）と大邱保健大学（韓国）から交換研修生が相次いで来熊しました。約10日間の期間中、一行は本学での授業体験や医療施設見学などを行いました。研修の合間には茶道や華道などの日本文化を体験。阿蘇や熊本市の名所観光を楽しみました。また、サポート役を務めた本学学生たちとも交流を深めました。（NL編集部）

交換研修生 熊本滞在記



さよならパーティーでダンスを披露するコンケン大の研修生



阿蘇神社で、楼門の大しめ縄をバックに記念撮影するコンケン大の研修生



韓国料理づくりを通して、韓国文化研究クラブの学生たちと交流



歓迎パーティーで竹屋元裕理事長・学長（前列中央）らと記念撮影する大邱保健大の研修生たち（前列）



茶道体験に臨む大邱保健大の研修生



野中 裕樹
リハビリテーション学科
理学療法学専攻助教

主に心臓リハビリテーションに関する研究を行っています。現在は心疾患患者における運動恐怖症に着目し、その評価と介入のありかたについて研究を行っています。その他にも心疾患と認知機能障害の関係にも着目し研究を行っています。

島野 彩香
キャリア教育
研修センター助教



卒後長く従事していた病院に高齢者や認知症をもつ方の入院が多く、老年看護・認知症看護に関心を持ちました。本学キャリア教育研修センター認定看護師教育課程に入学後、2018年に認知症看護認定看護師資格を取得しました。以降は病院内での横断的な活動や院内外の医療従事者向けに認知症ケアに関する教育を行っていました。近年は非薬物療法によるせん妄やBPSDの予防・緩和に関心があり、根拠に基づいたアロマセラピーの活用に向けて自己研鑽中です。

多彩な成果披露 音楽制作も

基礎セミナー 合同発表会

1 年次教養科目「基礎セミナー」の合同発表会が7月22日（水）開催され、34のセミナー受講学生たちが活動の成果を披露しました。

「基礎セミナー」は、学科・専攻を超えて共に学び交流を深め、チーム医療に求められる力を身に付けるのが狙い。初年次教育の目玉授業のひとつです。各講座のテーマは担当教員の専門分野、趣味、興味・関心を反映した多彩な内容で、学生たちは興味のあるセミナーを選びます。

合同発表会は3会場に分かれて行われました。1300L講義室では11セミナーの発表があり、学生たちがスライドを用いて、ユニークな授業内容や学んだことを発表しました。このうち、「くまほのPR音楽を作ろう」（担当：山本良平准教授）と銘打った講座では、生成AIを活用し、歌詞からメロディまで全てを学生たちが制作。オープンキャンパスで高校生へ披露することを目指しました。

歌詞づくりで工夫した点を問われた学生は「大学の魅力を短くまとめ、高校生に伝わる表現にすることを意識した」。完成した曲が披露されると、その完成度の高さに会場からは驚きの声が上がっていました。（NL編集部）



多彩な内容の発表があった基礎セミナー合同発表会の会場

私の秘話 ヒストリー



学務課
猿樂 南海さん

九重連山を彩るミヤマキリシマ
（筆者撮影）

山登りにハマって

8月11日は「山の日」です。今年、大学の友人に誘われて山登りを始めました。初登山の阿蘇、のどかなハイキング気分では丸腰だった私の前に、無数の岩々が立ちはだかりました。想像以上に山道は険しく心が折れかけましたが、山頂からの大パノラマと登頂の達成感、そしてなにより下山後に呑むビールの美味しさに感動し、まんまとハマってしまいました。

以来、体力づくりにランニングを再開し、玄人の山登り動画を見漁り、気づけば登山用品売り場に吸い寄せられる日々です。だんだん慣れてきたのか、最近では下山後も自転車で街へ繰り出し、まだ食べぬ絶品を探し歩くなど、我ながら食への執着具合にびっくりしています。

そんな私ですが、8月の計画年休ではついに富士山に挑戦する予定です。無事に踏破した暁には、静岡県のある有名なハンバーグを堪能したいと思っています。

本棚を物色し、気に入った書籍を手にする選書ツアー参加者。熊本市西区のメトロ書店



本との出会い 楽しいね

第16回「学生選書ツアー」



第16回学生選書ツアーを7月12日（日）、熊本市西区のアミュプラザくまもと内にあるメトロ書店で実施しました。学部生4人、教職員5人が、医療系専門書や社会学、哲学、心理学、文学、その他合わせて96冊を選びました。

参加学生からは、「いろんな本と出会えて楽しかったです」「時間が最初は長いと感じましたが、選書していると思ったよりも丁度よく、たくさん読みたい本が選べました」という声が聞かれました。

選ばれた本は、近日中に展示コーナーに配架します。どうぞご覧ください。次回の選書ツアーは、11月に予定しています。（図書館）

銀杏アラカルト

■熊本聾学校の生徒が来学 大雨の影響で延期となっていた熊本県立熊本聾学校普通科1年生の大学訪問が7月9日（木）実施されました。生徒7人と教員4人の計11人が来学、終始和やかな雰囲気の中で本学の学びを体験しました。入試・広報課職員が大学概要を説明した後、学生相談・修学サポートセンターの岩村純子准教授が修学サポート体制や学生生活の支援制度について、説明しました。午後、一行はKMバイオリジクスアリーナや実習室など実際の学びの場を見学、大学生活のイメージをより具体的にしていました。模擬授業では、リハビリテーション学科言語聴覚学専攻の佐藤公美講師が、補聴器を作る際に行う耳の型取りの工程を紹介。生徒たちは耳の模型を使った型取り体験にも挑戦しました。（入試・広報課）



型取り体験をする生徒とそれを見守る佐藤講師

インフォメーション

行事予定（8月4日～24日）	
8/10（月）～17日（月）	夏季休暇
8/17（月）～9/3（水）	オンデマンド保護者会（医学検査学科3年、理学療法学専攻2年）
8/23（日）	オープンキャンパス

※「NEWSLETTER334号」は8月24日（月）に配信します。